



令和7年4月10日

各 位

会 社 名 アクサホールディングス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 久岡 卓司  
 (東証スタンダード市場・コード3536)  
 問合せ先 取締役経営管理部長 新藤 達也  
 (TEL. 078-391-4000)

第2四半期(中間期)業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

令和6年10月15日に公表しました令和7年8月期(令和6年9月1日～令和7年8月31日)の第2四半期(中間期)連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 令和7年8月期第2四半期(中間期)連結業績予想数値の修正(令和6年9月1日～令和7年2月28日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 6,253	百万円 161	百万円 88	百万円 96	円 銭 3.18
実績値(B)	6,035	49	△50	△100	△3.31
増減額(B-A)	△218	△111	△139	△196	
増減率(%)	△3.5	△69.1	△156.8	△204.3	
(ご参考)前期第2四半期実績 (令和6年8月期第2四半期)	5,990	5	△58	△62	△2.07

2. 業績予想との差異の理由

令和7年8月期第2四半期(中間期)連結業績予想につきまして、売上高は、小売セグメントでは、不安定な海外情勢や長引く円安の影響等により、ガソリンや水光熱費・食料品といった生活必需品が高騰し、消費者の生活防衛意識が高まっていること等により減少しました。卸売セグメントでは、新規取引先の開拓に積極的に取り組んだことや、令和6年10月1日付に連結子会社化した株式会社GIVERSの売上が寄与したことにより売上高は前年同四半期(中間期)を上回ったものの、全体としての売上高は業績予想を下回りました。

損益面につきましては、長引く極端な円安の影響による仕入原価の高騰や販売コストの増加、水光熱費の高止まりの影響に加え、長短金利の上昇による支払利息の負担増もあり、営業利益および経常利益並びに親会社に帰属する四半期純利益につきまして当初業績予想を下回りました。

今後、小売セグメントにおいては、人口減少エリアから人口密集エリアに対して、ウィスキー業態や化粧品・雑貨等を含むバラエティショップの店舗網拡大を図ることにより売上高、利益の獲得を目指してまいります。卸売セグメントにおいては、シンガポールに構えた営業所を拠点として東南アジアを中心に積極的に輸出に取り組むとともに、国内においては、札幌営業所を新設する等、新規取引先の開拓に注力しており、引き続き積極的な営業展開により売上高、利益の獲得を図ってまいります。また、成長戦略とし

て、引き続きM&A戦略に積極的に取り組み、既存事業とのシナジーによる売上高、利益の確保を図ってまいります。

以上の取り組みにより、通期の連結業績予想の達成を目指してまいりますので、現時点では通期の連結業績予想につきましては変更しておりません。今後の業績動向を踏まえ、業績予想を見直す必要が生じた場合は速やかに開示いたします。

(注) 上記の業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上